

## 取手9条の会が憲法問題で学習会 『法的安定性』とは? なぜ大事



取手9条の会は2日、憲法学者の田村武夫元茨大副学長を迎えて、日本国憲法、安保法制案、自民党憲法改正草案等について学び、意見交換をしました。その中で、今問題となっている「法的安定性」について、「どういうことか」「確保されないはどうして違憲か」などについての論議も交わされました。ご紹介します。

### 法的安定性は法の支配・立憲主義の最重要条件

法的安定性の意義は大別して2つ。

- ① 国民の予測可能性の確保、これを通じて法への信頼確保を図る。国民は、権利や義務・負担の発生・消滅が予測可能なら安心して社会生活が営める。それにはみだりに法の変更がなく、法運用が安定していることで法への信頼が存する。
- ② 法内容を公定し適用する裁判官にとって、法の安定は、判例法理の維持・継続により、次つぎの事件に同じ基準で判断できる。(安心感・安定感の確保)国民にとっては・解決の見通しにつながる。



市内の福祉医療生協からも  
タ方の国会包囲行動に参加  
＝7月30日、国会前

### こんな時にも自衛官募集の広告

8月1日付の取手市広報に掲載された「自衛官募集」の報告記事。問い合わせ先は自衛隊茨城地方協力本部・事務所となっていたものの、「自衛官候補生＜対象＞(女子も含め)18歳以上27歳未満、・・・」などの記述がならべられています。戦争法案の国会審議のさ中「戦争する国になったら自衛隊の危険ははかりしれない」と、自衛官のなり手が減少し、退官者が増えているもと、市が「募集広告」を大きく扱うのは異様です。

日本共産党は、「市民の不信を買う、こうした『お知らせ』は掲載すべきでない」と申し入れました。

戦争法案の参院での審議が始まりました。この間、法案の違憲性、歴史の逆行性が日本共産党はじめ他の野党の論戦で明らかとなり、衆院での強行採決後の国民の運動は空前の規模に広がっています。世論調査でも戦争法案反対が急増し、内閣支持率は急落。若い世代、学生と学者の共同などそれぞれ、やり方での新たなスタイルで運動が発展、安倍政権を追い詰めています。取手でも個人や市民団体、政党(社民党、生活者ネット、日本共産党)の共同で幅広い運動が広がり、20日には、

参院では3日、磯崎首相補佐官が「法的安定性は関係ない」発言で参院特別委員会に参考人招致され、「発言の取り消しと、お詫び」を表明。しかし辞任要求は拒否し、「国際情勢の変化に一定の配慮はすべき」との発言については「撤回しない」としました。

### 立憲主義否定の安倍政権 磯崎氏辞任拒否

2度目の総かけり取手行動が予定され、その呼びかけ人・賛同者は378名(8/3現在)となっています。

参院の安全法制特別委員会委員長の鴻池祥肇(自民)は「9月中旬までにこの法案を上げたいという(磯崎)発言はいかがと思う」「参院は衆院の下部組織ではない。官邸の下請けではない。先の大戦で貴族院が(軍部を)止められず戦争に至った道を十分に反省しながら参院の存在を作り上げた。衆院の拙速を戒め合意形成に近づけるのが役割だ」と発言しました

「国際情勢の変化」で憲法解釈と武力行使の範囲が拡大することは「法的安定性」より重要だ、という安倍政権の本音を語ったものとして重大です。法治主義・立憲主義をないがしろにするもので、安倍首相の任命責任が問われます。また、自民党の武藤貴也衆院議員は「戦争行きたくない」は、『利己的考え』とツイッターに書きました。こんな政府に政権は任せられません。

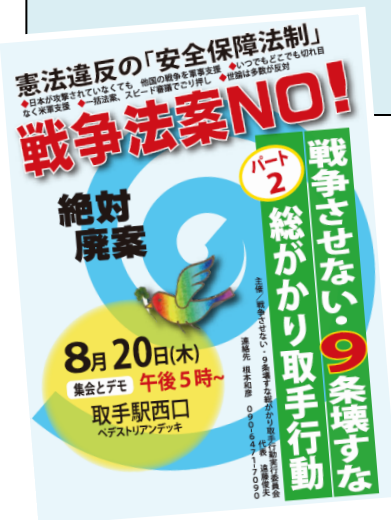
全国いたるところで、国民運動をさらに広げ、「アベ政治を許さない」圧倒的世論で戦争法案を廃案にさせましょう。

## 戦争法案NO!

取手でも連日、市民・市民団体のみなさん、日本共産党など共同で行動に取組中。どなたでもご参加ください。

8月20日(木) 午後5時～ 取手駅西口デッキ

戦争させない・9条壊すな  
総がかり取手行動 パート2



“野党協力をどう考える?” “中国への対応、北朝鮮問題の解決は?” “政権を展望して自衛隊、天皇制どうする?” —こんな質問に日本共産党の志位和夫委員長が縦横に答えた番組が1日からインターネットで公開されています。インターネット放送局「ビデオニュース・ドットコム」のインタビュー番組「もしも共産党が政権の座に就いたなら」です。聞き手はジャーナリストの神保哲生氏と社会学者の宮台真司氏です。

番組の動画は以下のサイトで無料で閲覧できます。

<http://www.videonews.com/marugeki-talk/747/>

動画サイト・ユーチューブでも公開されています。



# 9月 県・市 議会に臨む 日本共産党

## くらしの安心第一。戦争法ダメの県・市政を



上野たかし 県議



加増みつ子 各市議



遠山ちえ子 各市議



鈴木きよし 各市議



関戸 勇 各市議



小池えつ子 各市議

例年にも増して暑い夏。今年はこれに戦争法案廃案に向けての空前の国民運動、原発再稼働反対、社会保障・くらし守れの諸運動なども加わり、ひととき暑い・熱い夏です。9月市議会では、みなさんの声を議会に届け、全力でがんばります。

9月議会では、☆地方自治・反戦平和 ☆公的保育の充実 ☆国保税の引き下げ ☆安心の介護制度へ ☆生活基盤整備 (違法・不当な建設残土の埋め立てストップ、取手駅東口バリアフリー化、小・中校廃校の跡地利活用)などを取り上げる予定です。みなさんのご意見をお寄せください。

9月市議会へ提出します。

### 「高すぎる国保税の引き下げ署名」にご協力を

取手市の国民健康保険加入者はおよそ2万世帯、3万3,400人(H25年度)で、一人当たりの国保税は9万4千円(平均・年)にもなり、高すぎる国保税の引き下げを求める声が大きくあがっています。藤井市長は、平成20年に国保税の大幅(29,7%)値上げを行い、その結果黒字会計に。H24年度からは、国保税の値上げを抑えるための一般財源からの繰り入れまでやめてしまいました。それでも国保会計は7億4,000万円もの黒字に。国保のためこみ金は5億円にもなっています。ためこみ金を活用し、市の繰り入れ再開で、国保税の引き下げをはかせましょう。「引下げ」を求め、9月市議会に署名を提出するため、日本共産党は多くの皆さんに呼びかけ取り組んでいます。

### 自治体学校(金沢)などで学んできました

市議会議員 加増みつ子

7月、公務員・議員が一同に会する自治体学校(金沢市)に参加。私は、「平成の大合併の検証と『地方創成』住民の視点から」の分科会に参加し、各地の実態を学んできました。分科会では半ば合併を脅迫され選択をしたと言う首長から「だまされたのでは」との話も。合併した殆どの自治体から、財政はひっ迫し職員削減で福祉など住民サービスの低下、人口減が加速している等の報告が出されました。

平成の大合併で10年経過の取手市についても合併後の検証をしっかりと行い、住民のための住みよい街づくりをどう進めていくか、学んだ自治体学校でした。

県議会議員 上野たかし

県議団主催の「戦争遺跡を考える」学習会に参加しました。30代の茨城大学准教授の「なぜ戦争はおこされたか」「加害責任にももっと目を向けるべき」に共感。元社会教育学会会長の「“展”から“館”へ」とした、長野県での満蒙開拓団の平和会館づくりの経験に学びました。

また、戦後70年目の記念大会の自治体学校では、憲法、地方自治、そして反戦平和について学びました。これらを土台に9月県議会での一般質問(16日午後1時から)に臨みます。

### 条例の精神に反するが、違反ではない！？

#### 金澤市議の政治倫理条例違反を問う審査結果

藤井市政のもと民営化された戸頭保育園が、金澤克仁市議の親族経営となり、同法人から2年にわたり金澤市議が給与を受けとっていた問題等で、同議員の政治倫理条例違反を問う市民の調査請求(代表篠田孝光さん)に対する調査結果が、同審査会(吉田起男会長)から送付(7/16)されました。

審査会結果は「政治倫理条例の精神に反する行為は慎むべき」としながら「政治倫理基準に違反するとは認められない」とする不可解なものです。篠田さんらは「潔白の立証責任は、市長、市議の側にあり、彼らがこれで済んだとするなら市民の疑惑を明らかにすることはできず、政治倫理条例の本来の目的を果たすことはできない」と厳しく指摘。「引き続き真相解明を求める」としています。

日本共産党は市の保育行政の低下をもたらした民営化政策を糾し、金澤市議の責任と戸頭東保育園運営の正常化、保育の充実を図るため全力をつくします。

### 日本共産党実施のアンケートへのご協力ありがとうございます。

お寄せいただいた回答は8月5日現在、840通です。

今回(その2)は「福祉に関する声」の一部を掲載します。

- ◆こども支援とうたいながら、子供に熱があって保育園に預けられない時、他市では病院の付属や看護師の常時いる園があるが取手市には未だない。早急に整備してほしい。(30代女性)
- ◆少子高齢化がこれから更に増えていく。介護離職者などの支援強化を図ってほしい、今まで都内に通勤していたが、市内に雇用があれば短時間でも働きたい。(40代女性)
- ◆高齢者を苦しめている。今の高齢者が働きバチで働いてきたので、今の日本がある。(70代男性)
- ◆市民の暮らし、生活に密着した政治が政治の基本です。大型開発より将来を担う青少年の教育、だれでも公平に安心して暮らせる福祉、医療は重要な分野です。(60代男性)
- ◆取手市の情報がなかなか伝わらないし解りづらい。パソコン等を使用しない者に伝わるような手立てを望みます。(20代女性)